

# おう吐物の処理に注意しましょう

感染性胃腸炎流行期には、おう吐物中にはノロウイルスが含まれている可能性があり、おう吐物の処理者（非感染者）や周囲の方がノロウイルスに感染するおそれがあります。感染拡大を防止するために、適切におう吐物を処理しましょう。

## ～おう吐物の処理手順～

- ① はじめに換気します。（窓や戸を開ける、換気扇を回す等）  
処理者以外は感染防止のために、おう吐のあった部屋から外に出ましょう。



おう吐物を新聞紙等で覆い、汚染の拡大を防止します。



- ② 同時に、消毒液（※）を作りましょう。

（※）おう吐物の処理のための消毒液：1,000ppm 次亜塩素酸ナトリウム液

### <簡単な作り方①>

空のペットボトル（500ml）にキャップ2杯（約8ml）の6%次亜塩素酸ナトリウム液を入れ、水で満たす。



誤飲防止のため「消毒液」と表示する

### <簡単な作り方②>

6Lの水に6%次亜塩素酸ナトリウム液100mlを入れる。  
（ポイント：6Lの水にあらかじめバケツ内側に6Lの線を引いておくとよい。）



- ③ 作業者の感染防止のため、使い捨てマスク・手袋・エプロンを着用します。



手袋は二重にします。

- ④ ビニール袋は口を開いた状態で2つ準備します。消毒液を新聞紙等にかけて直ちに、おう吐物を集めてビニール袋に入れます。（手袋（外側）も入れます。）  
ビニール袋の口を軽く折っておきましょう。



- ⑤ 処理後の床を消毒液で10分間覆います。（塩素が消費されにくい白いペーパータオルや白い綿のタオル等（処理後は捨てる）の使用が望ましいです。）



<参考情報>

次亜塩素酸ナトリウムには漂白作用があります。  
カーペットや畳等におう吐物が付着した場合は、アイロン掛けが有効です。  
（ノロウイルスの失活には、次亜塩素酸ナトリウムのほか『加熱（中心部 85～90℃、90 秒間以上）』が有効であるため）

- ⑥ 処理後は水拭きし、消毒液の残りをおう吐物の入ったビニール袋に注ぎ、この袋の口を縛り、これをもう1枚のビニール袋に入れます。  
さらに、使用した手袋・マスク・エプロンを捨て、袋の口を縛ります。



- ⑦ **【重要!!!】** 感染防止のために、『十分に泡立て、よく流す手洗い』を行います。



- ⑧ もう一度『十分に泡立て、よく流す手洗い』を行います。



終了です。窓や戸を閉めましょう。

(上記のおう吐物は、シュレッダーくずに着色液を加えて作成した模擬品です。)